

授業科目 NO. 508 小児看護学実習

Pediatric Nursing Practicum

授業の形態： 実習
単位数（時間数）： 2単位（90時間）
開講年次・学期： 3年次・前後期
必修・選択の別： 必修
キーワード： 健康課題、子ども、家族、小児看護、看護過程

1 金沢医科大学看護学部の到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学修目標

- 1) 一般目標（GIO）
疾患をもつ子どもを総合的に捉え、家族も含めた看護を実践する基礎的能力を修得する。
- 2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。
 - (1) 療養生活を送る子どもとその家族を総合的に捉えることができる。(②)
 - (2) 療養生活を送る子どもとその家族の健康課題を明らかにすることができる。(②)
 - (3) 療養生活を送る子どもと家族に必要な看護を判断して実践できる。(②)
 - (4) 看護学生としての必要な態度を修得できる。(①②④)
 - (5) 新生児集中治療室（NICU/GCU）における新生児とその家族に必要な看護を説明できる。
(②)
 - (6) 小児外来および赤ちゃん体操教室に参加する子どもとその家族に必要な看護を説明できる。
(②)

3 学修内容

実習の内容については、実習要項に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	%
実習成績	100%
レポート	%
授業態度	%
小テスト	%
口頭試問	%
その他	%
合計	100%

(特記事項)

5 教育担当者

科目責任者 : 吉川 由希子

教 授 吉川 由希子 (小児看護学)
 助 教 小村 未来 (小児看護学)
 助 教 横山 裕介 (小児看護学)

6 教育担当者の実務経験

担当教員は全員、実務経験を有している。

7 教 科 書

- 1) 奈良間美保他 (著) : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学[1]、第 14 版、2020、医学書院
- 2) 奈良間美保他 (著) : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学[2]、第 14 版、2020、医学書院

8 推 薦 参 考 書

- 1) 浅野みどり編 : 根拠と事故防止からみた小児看護技術 第 2 版、医学書院、2016
- 2) 浅野みどり編 : 発達段階からみた小児看護過程 第 3 版、医学書院、2017
- 3) 山元恵子監修 : 写真でわかる小児看護技術、インターメディカ、2011
- 4) 松森 直美 (編集)、蝦名 美智子 (編集) : 小児看護ケアモデル実践集—看護師が行う子ども目線のプレパレーション、へるす出版、2012
- 5) 細野 亜古 (著、編集) : こどものがんと治療: 患者説明にそのまま使える 不安なパパ・ママにイラストでやさしく解説、メディカ出版、2016
- 6) 大久保 文雄 (著、編集) : こどもの口唇裂・口蓋裂の治療とケア: 患者説明にそのまま使える 不安なパパ・ママにイラストでやさしく解説、メディカ出版、2014
- 7) 立石 実 (著) : こどもの心臓病と手術—不安なパパ・ママにイラストでやさしく解説、メディカ出版、2014

カ出版、2011

- 8) 有森尚子 溝口満子編集執筆：遺伝/ゲノム看護 医歯薬出版株式会社 2018
- 9) 藤田弘子：ダウン症児の赤ちゃん体操 - 親子で楽しむふれあいケア メディカ出版 2000

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- 1) 別紙実習要項を熟読し、実習前に行われる実習オリエンテーションに参加すること。
- 2) 実習要項を参照し、事前学習に提示された項目について学習しておくこと。
- 3) 受け持ち患児の疾患や治療などの最新の情報は適宜提示していくので参考にすること。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

- 1) 実習内容および課題については、個別指導、カンファレンスにてフィードバックを行う。
- 2) 実習評価については、実習最終日に実習状況、記録等を基に到達度をフィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) 自主性をもって参加するとともに、グループメンバーとの意見交換を密に行うこと。
- 2) 健康管理を徹底し、感染症の罹患に注意すること。

12 オフィスアワー等

実習中の連絡方法については、ガイダンスの時にお知らせします。

吉川：y-yukiko@kanazawa-med.ac.jp

小村：komura-m@kanazawa-med.ac.jp

横山：kuyonsa@kanazawa-med.ac.jp